

## 1 実践事項 (2)

## 「糸満市学力向上主要施策に係わる取組」

## 「支持的風土の学級・学校づくり」

(1) 心豊かな子「豊かな心の育成」→支持的風土の学級・学校づくり

アンケートの実施(年2回, 教育相談週間を設ける) i チェック・スクリーニングの実施と活用

## 2 今年度の取組

(1) 支持的風土をつくる学級経営の充実

- ①担任は児童一人一人が楽しく, 安心して過ごせる学級づくりに努める。
- ②教師は児童の一人一人の頑張りや優しさなど, その子の良さを見とり, 認める(価値付け)。
- ③学校生活の諸活動を通して, 自分の役割に責任をもって取り組める児童を育てる。
- ④i チェックの実施及び分析結果を活用することでよりよい人間関係づくり, 学級づくりに努める。
- ⑤スクリーニングチーム会議(年1回: 7月24日実施)による児童への共通理解を図り, 指導にあたる。(市教委や専門家, SC, 教育相談員等が参加)

(2) 生徒指導・教育相談の充実

- ①「生徒指導の4つのポイント」が生かされた授業を日常的に実践する。(①自己存在感を感受②共感的な人間関係の育成③自己決定の場の提供④安全・安心な風土の醸成)
- ②毎月の児童支援委員会(生徒指導・特別支援・教育相談)を通して, 職員の共通理解を図り, 課題解決のための共通実践を行う。
- ③いじめや不登校への早期発見・早期対応(i チェック, なかよしアンケート, 何でも相談アンケート, 年2回の教育相談, スクリーニングチーム会議, 日常的な観察)
- ④スクールカウンセラー, 教育相談員の活用。

(3) 規範意識・マナーの向上

- ①授業終始のあいさつ, 返事の習慣化。

(4) 道徳教育, 人権・平和教育の充実

- ①道徳教育の重点目標を「相手のことを思いやり, 認め合い, 支え合う心を育てる。(親切, 思いやり), (友情, 信頼)」とした。
- ②各学年, 道徳の授業を授業参観で保護者に公開する。(年1回以上)
- ③毎月第1金曜日を「人権の日」と定め, 朝一斉の呼びかけ放送を行い, 担任が児童と共に毎月の人権のテーマについて考える時間を設ける。
- ④慰霊の日に向けての取り組みの充実を図る。  
(平和集会と平和宣言, 地域の慰霊祭への積極的な参加等)

(5) 学級活動や係活動, 当番活動等を通じた自己肯定感を育む学級づくり。

(6) 児童会活動を生かした学びに向かう集団づくり

- ①三和中学校生徒会と連携を図り, 小中連携事業「服のカプロジェクト」について全校体制で取り組んでいる。
- ②縦割り班活動の充実(体力テスト, 清掃, 児童会行事, 探究的な学習活動)



【写真:服のカプロジェクト】

## 3 成果と課題

〈成果〉

- 総合的な学習の時間に縦割り班で探究的学習を取り入れ, 新しい学習スタイルに挑戦することができた。
- 各種アンケートやカウンセラー, 教育相談等の人材を活用し, 児童支援委員会やスクリーニング会議等を行うことで児童間の交友関係や不安や悩みを確認, 理解することができ, 児童の問題行動の予防や指導につなげることができた。

〈課題〉▲自分の良さを実感できず, 自己肯定感が低い児童が少なくない。

- ▲自分の考えを整理し, 明確に伝えることが苦手な児童が多い。

# 「子供主体の学び合い高め合う授業づくり」

## 1 現状

### (1) 教師の支援

- ①児童の「問い」を引き出す課題の提示。
- ②児童の「問い」を生かした「めあて（目標）」の設定。
- ③見通しをもち、めざすゴール（評価規準）をイメージさせる工夫。
- ④既習の知識・技能を活用する場面の設定。
- ⑤比較、分類、類推などの深い学びにつなげる発問の工夫。
- ⑥他者との交流を通して、自分の考えを吟味し、深い学びにつなげる場面の設定。
- ⑦学びの過程を振り返り、新たな「問い」を持たせる工夫。
- ⑧言語活動に応じた学習形態の工夫等。
- ⑨ICT支援員の活用による情報教育の充実を図る。（電子黒板、学習に効果的なソフトの活用等）
- ⑩学習支援員の活用による授業改善及び、きめ細かな指導。
- ⑪特別支援員の活用による児童一人ひとりへの適切な支援。



【写真2 授業実践の様子】

## 2 今年度の取組

- (1) 本校の学びの質を高める「5つの方策」に基づき、チーム真壁小として、全職員協働の教育実践を目指す。
  - ①質的授業改善として、教材研究ノートの作成や、全教師がICTを効果的に活用し、「分かる授業」を展開し、「個別最適な学び」を推進する。
  - ②学習規律の徹底として、「聞く態度」や学習用具の準備や片づけ、整理整頓、提出物等の指導の徹底。
  - ③組織的共通実践として、〈凡事徹底〉進んであいさつ、人の話をしっかり聞く。〈学習規律の徹底〉休み時間に次時の準備をする、授業前着席、チャイム時黙想、名前を呼ばれたら返事をする、よい姿勢でしっかり話を聞く、身の周りの整理整頓。
  - ④全国学力・学習状況調査や県学力到達度調査等による結果分析をもとに、各学年の課題を抽出し授業改善に生かす。
  - ⑤スクリーニング会議を実施し、児童の実態を共有することで学習指導体制の構築を図る。

## 3 成果と課題

### 〈成果〉

- 校内研のサブテーマとして効果的なICTの活用を取り入れたことにより、教科の特質に応じた「分かる授業」への工夫改善や学習進度や学習形態など「個別最適な学び」を推進することができた。
- 学力調査等の結果分析をすることで、課題となる領域の具体的な授業改善の取り組みを実施することができ、継続的な繰り返し指導にも生かすことができた。

### 〈課題〉

- ▲話している人の話を最後まで聞かずに途中で口を挟んでしまうことが多いので、聞くことの重要性を理解させながらその力を育てていく必要がある。
- ▲教師のICT活用能力に差があるので、互いに学び合う機会を計画的に入れていく必要がある。

生徒指導

## 「生徒指導について」

### 1 生徒指導の現状（12月現在）

2023年度 いじめ認知件数 4件， 解消3件。 対教師暴力0件。児童間暴力0件。  
2023年度 30日以上欠席2名（不登校），10日～29日欠席24名

### 2 今年度の取組（自己存在感の感受，共感的な人間関係の育成，自己決定の場）

#### （1）児童が主体の委員会活動



1年生を迎える会



SDG'sの説明



図書委員会の平和集会での朗読

#### （2）異学年交流（縦割り班活動等）



縦割り班清掃



体力テスト



探究的な学習活動（SDG's）

- ① なかよしアンケートの毎月の実施
- ② 真壁っ子の一日
- ③ 児童支援委員会の毎月の実施（生徒指導，教育相談，特別支援）
- ④ スクリーニング（年1回以上）

### 3 成果と課題

- ・成果 いじめの認知件数に対して解消も増えている。
- ・課題 いじめがあることも事実である。また，欠席する児童も少しずつではあるが増えている。
- ・対策 週に1回の担任会，月に1回の児童支援委員会で，気になる児童や頑張っている児童等を共有し，共通指導を行う。担任による児童観察や教育相談を行ったり，毎月の人権の日の放送で人権について考えさせたり，「なかよしアンケート」を実施したりすることで，いじめの早期発見と対応に努める。

## 「地域と共にある学校づくり」

### 1 現状

本校は、明治13年に創立され今年で143年目を迎える。真壁校区は、字真壁を始めとする10字あり、現在、全校児童数156名と小規模校である。人口の減少化に伴い、地域の少子化もあり、地域との交流も年々希薄化してきている。

本校には、地域コーディネーターが在籍していないこともあり、市の生涯学習課と連携を図って、地域人材の確保を行っている。また、令和2年度より学校運営協議会がスタートし、「地域と共にある学校づくり」を目指している。



【萬華之塔慰霊祭へ参加】

- (1) 地域行事への参加
- (2) 地域資源を活かした平和教育の実施
- (3) 地域人材の活用による教育活動と環境整備の支援
- (4) こ小連携により円滑なスタートカリキュラムの推進
- (5) その他

### 2 今年度の取組

- (1) 萬華之塔慰霊祭へ各学年児童代表と職員で参加した。また、字真壁老人会と1、2年生児童が昔遊びで交流会を行う。
- (2) 4年ぶりに開催された名城ハーリーでは、休校とし、児童の参加を促して職員チームと子供チームで地域行事に参加した。(地域行事を重要視)
- (3) 生活科や総合的な学習の時間において、地域と関連のある絵本や映像資料等を活用したり、萬華之塔や轟の塔、平和資料館、ひめゆり平和祈念資料館を見学したりして、平和の尊さや大切さについて気づかせる。
- (4) 毎月第1、3月曜日に、保護者や地域、読み聞かせボランティアミルキーウェイに協力していただき児童へ読み聞かせを行っている。また、学習活動やクラブ活動、書き初め会等各種行事において講師を活用している。  
休業日や休業期間には、保護者や学校運営協議員に校内の植物への灌水の協力を依頼している。
- (5) 高学年児童による絵本の読み聞かせを行っている。
- (6) 学校だよりや保護者連絡ツールアプリ「スクリレ」を活用して、児童の活動や学校の様子等を発信している。

### 3 成果と課題

#### 〈成果〉

- 地域行事へ参加することで、地域の方々との交流となり、地域のよさや伝統、文化について理解や関心が深まった。
- 保護者やこれまでに接点のなかった地域の方々も交流ができ、学校・保護者・地域の連携につながった。

#### 〈課題〉

- ▲地域コーディネーターが不在のため、人材を確保することが難しい。
- ▲学校運営協議会と地域学校協働本部との連携体制の構築